

2021

# 国語

## 注 意

1. 試験時間は、8:50～9:40の**50分**です。
2. 問題は ㊦ から ㊧ まであります。
3. 解答用紙に、受験番号と氏名を書きなさい。
4. 解答はすべて**解答用紙**に書きなさい。
5. 先生の指示があるまで、問題用紙をあけてはいけません。
6. 問題についての質問はうけつけません。
7. 試験が終わったら、解答用紙を裏返しにしておきなさい。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

加賀谷周斗は「FCレック」というサッカークラブの選手である。中学一年生の間はチームのキャプテンを任されていたが、二年生になると他のクラブから移ってきた清野大地にキャプテンの座を譲ることになった。そして春のリーグ戦、周斗のチームは試合終了間際までリードしていたが、周斗の小学校時代からのチームメイトでもある、途中から交代で出てきた克彦のミスにより失点、試合は結局引き分けに終わってしまった。

試合終了後の柴山コーチの話は、おおむね選手たちの動きをほめていた。でも周斗の A には何も残らなかった。

「さあ、次の公式戦は二週間後だ。次こそ勝利を勝ち取ろう」  
 気付くと締め言葉になっていた。

「ハイ！」

周斗はみんなの返事に出遅れてしまい、そのまま黙っていた。  
 挨拶が終わると、蓮は応援に来ていた両親とすぐに車で病院に向かった。応援席をちらりと見ると、もう父さんの姿も克彦の母親の姿もなかった。早々に退散したらしい。

周斗は **X** 無然としたまま、スパイクの紐をゆるめた。ふと気付くと、みんなが周りにいない。知らないうちに、① 少し離れたところで輪が出来ていた。輪の中心は克彦だった。右腕で目を覆っている。

② あいつ、泣いてんのか？

何とかおさめようとしていた怒りが、予告なくはじけ飛んだ。同情なんか一ミリも生まれなかった。  
 周斗はみんなが集まっている輪に近づいた。

「克彦、ドンマイ。切り替えて、次、頑張ろうぜ」

大地が克彦の肩に手をのせた。克彦はその言葉に余計に嗚咽した。

「そうだよ、かっちゃん。誰だってミスするし」  
「俺たち、いい線いったよな」

「うん、惜しかった。次は勝てるんじゃないか」  
選手たちが克彦を慰めようと、次々に口にした。

「なあ、今日は勝てなかったけど、負けなかったわけだし、帰りにみんなでどっか行かね？ かっちゃん、行こうよ」  
歩が言った。

周斗は Y 愕然とした。 B が震えそうだった。

お前ら、悔しくないのかよ！ 勝ちたくなかったのかよ。勝てた試合なんだぞ。お前らにとって今日の試合は、それくらいのものなのかよ。  
「かっちゃん」

周斗の低く突き刺すような声に、みんながいつせいに振り返った。

「俺はミスを責める気はない。だけど、お前は最初からやる気なかったよな。ゴールを死ぬ気で守ろうと思ってなかったよな。俺が許せないのは、そこだ！」

克彦を励まそうとみんなが盛り上げていた空気が、一気にドンと突き落とされた。克彦は目に当てていた腕をどいた。

「周斗、いいから」

大地が言うのを、周斗は遮った。

「お前、もうやめろよ」

その瞬間、克彦の真っ赤な目が見開かれた。

「サッカーなんか、やめちまえよ」

場が凍り付いた。克彦の瞳の奥が鈍く光った。

③ 周斗、な、何言ってるんだよ。言い過ぎだぞ」

歩が克彦と周斗の間で視線を何度も往復させた。克彦は突然、ダツと駆け出した。

「かっちゃん！」

「かっちゃん、どこ行くんだよ」

みんなが追いかけてしようとするのを、大地は手で制した。重苦しい空気が選手たちを包んだ。<sup>④</sup>狭い空間せまにいるわけではないのに息がしづららい。

「周斗、お前さ。何様なんだよ」

ふだん穏おだやかな光貴が静寂せいじやくを切った。周斗の胸がビンと震えた。

「は？」

「I」を隠かくすように、周斗は光貴を思いつきりにらみつけた。

「お前ひとりでサッカーやってんじゃないんだよ」

光貴が吐はき捨てるように言うと、歩まで加勢した。

「周斗ってさ、かつちゃんとか俺とか控ひかえの選手のこと、正直馬鹿にしてね？」

ムードメーカーでお笑いキャラの歩の目は、笑ってなかった。<sup>⑤</sup>周斗は一瞬言葉を失った。

馬鹿にしているつもりはなかった。でも、優越感ゆうえつかんは感じていなかったか？ それって馬鹿にしていることになってしまふのか？ 歩に心を見透みすかされた？ いや、そういうのとは違ちがう……。

心がザワザワしてきた。

「そんなわけ、ないだろ」

反論する言葉は弱々しかった。

「いや、してる。でなきや、かつちゃんにサッカーやめろ、なんて言えるか」

歩がだんだん激昂げつこうしてきた。

「それに、周斗の態度はいつも、」

光貴が追い打ちをかけようすると、大地が遮った。

「もうやめろ。俺たち今仲違いなかつちがしている場合じゃないだろ。次の試合は二週間後だぞ」

大地のひとことで、静かになった。気まずい空気が続くなか、周斗はリュックのところにもどってスパイクを履はき替かえた。

着替もくもくえを黙々もくもくとすませると、何も言わずにその場を立ち去った。みんなの視線が背中に刺さっているような気がしたが、振り向くことは出来なかった。

光貴や歩が自分のことを、あんな風に思っているとは知らなかった。それに他のメンバーは黙ったままで、誰ひとりとして周斗の味方になってくれなかった。

試合会場のグラウンドから最寄りの駅まで、おおまた大股で歩いた。

何度か来たことのあるグラウンドだったが、ひとりで帰ることはなかった。自宅のある駅が同じの克彦とはいってもいっしょだった。

「周斗、帰ろうぜー」といういつもの声が、頭のなかに響いた。駆け出して行った克彦の後ろ姿が目につかぶ。

やっぱり、言い過ぎだな。<sup>⑥</sup>でも……。

勝手に飛び出してしまった言葉を取り戻したい気持ちと、あれはやっぱり仕方がなかったという気持ちがごちゃまぜになった。考えごとをしながら歩いていたせいで、赤信号をわたりかけていた。

車に派手にクラクションを鳴らされ、あわてて歩道に後ずさった。危うく接触するところだった。背筋がぞっとした。そのとたん、急に克彦のことが心配になった。

(佐藤いつ子『キャプテンマークと銭湯と』による)

(注1) 蓮…克彦の前に試合に出ていた選手。蓮のケガにより、克彦は途中交代して試合に出場することになった。

(注2) 嗚咽…むせび泣くこと。

(注3) 激昂…怒って激しく興奮すること。

問一 空欄A・Bに入る、体の部位を表す言葉としてもつとも適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

ア 鼻      イ 肩      ウ くちびる      エ 耳      オ ひとみ      カ ひざ

問二 波線部X・Yの言葉のここでの意味としてもつとも適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

X 惘然

ア 堂々としている様子  
 イ 納得がいかない様子  
 ウ 怒りがおさえられない様子  
 エ 偉そうにしている様子  
 オ 自信を失っている様子

Y 愕然

ア 怒りが爆発している様子  
 イ あきれかえっている様子  
 ウ 驚きが隠せない様子  
 エ 悔しさでいっぱいの様子  
 オ 悲しみにくれている様子

問三 傍線部①「少し離れたところで輪が出来ていた」・②「あいつ、泣いてんのか？」とありますが、傍線部①におけるチ、ム、メ、イトから克彦への思い、傍線部②における周斗から克彦への思いをそれぞれ説明しなさい。

問四 傍線部③「周斗、な、何言ってるんだよ。言い過ぎだぞ」とありますが、このときの歩の様子を五十字以内で説明しなさい。

問五 傍線部④「狭い空間にいるわけではないのに息がしづらい」とありますが、これは周斗にとってどのような状況を示す表現ですか。その説明としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 克彦がその場から逃げ出してしまったことで、自分の発言に責任を求められていると気づいたこと。
- イ 大地にその場をまとめさせてしまい、キャプテンに迷惑をかけたと申し訳なく感じていること。
- ウ 感情がおさえきれない自分の発言により、チームメイトと気まづくなってしまったこと。
- エ 克彦のプレーに対する厳しい指摘を、皆が理解してくれないことに怒りが抑えられないこと。
- オ 克彦のミスをめぐる激しい言い争いにより、呼吸が乱れるほど興奮してしまったこと。

問六 空欄Ⅰに入る言葉としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 後悔
- イ 衝撃
- ウ 疑問
- エ 動揺
- オ 笑顔

問七 傍線部⑤「周斗は一瞬言葉を失った」とありますが、それはなぜですか。その理由の説明としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア チームのムードメーカーである歩に反論され、言い返されるとは思っておらず拍子抜けしたから。
- イ 決して控え選手のことを馬鹿にしているつもりはないのに、その点を指摘され腹が立ったから。
- ウ 歩や光貴といったチームメイトからの批判が自分にあてはまる内容であり、自らの行動を反省したから。
- エ チームのために全力で試合を戦ったのに、それを光貴に強く否定されたのが悲しかったから。
- オ 控え選手への自分では気がつかなかった優越感を指摘され、心当たりがある気がして驚いたから。

問八 傍線部⑥「でも……」とありますが、このつぶやきから読み取れる周斗の考えを五十字以内で答えなさい。





まえに抱き、大人になるにつれて忘れてしまいがちな疑問の数々を、つまり子ども抱く素朴な疑問の数々を、自分自身がほんとうに納得がいくまで、けっして手放さないこと、これだけである。

子どもは哲学する

子どもとは何だろう。①、②、子どもが大人になるとは、どういうことだろう。思うに、それはこうだ。子どもは、まだこの世の中のことをよく知らない。それがどんな原理で成り立っているのか、まだよくわかっていない。では、大人はわかっているのだろうか。ある程度はそうだ。大人はわかっている。③、全面的にわかっているわけではない。むしろ、大人とは、世の中になれてしまって、わかっていないということを知ってしまった。世の識者たちとは、自分がだいたいなことを知らないということに気づいていない。

ソクラテスはかつて、こんなことを言った。世の識者たちは、自分がだいたいなことを知らないということに気づいていない。わかっていることを忘れてしまった。世の識者たちは、自分に対して、自分は、知らないということを知っている。④、わかっていることを忘れていない。この点で、世の識者たちよりも自分のほうがよくわかっている、と言えるだろう、と。

「知らないということを知っている」ことを「Xの知」という。知っていると思ひ込んでいるひとは、もう知ろうとしないだろうが、知らないとわかっているなら、なお知ろうとしつづけるだろう。知ることを求めつづけるこのありかたを「フィロソフィア」という。「フィロ」とは愛し求めることであり、「ソフィア」とは知ることである。つまり、「フィロソフィア」とは、知ることを愛し求めることを意味する。これが、哲学という言葉（英語ではフィロソフィ）の語源だ。

だとすれば、子どもはだれでも哲学をしているはずである。子どもは、たしかに、自分が知らないということを知っている。ただ、子どもはソクラテスとちがって、たいていの場合、大人たちもほんとうはわかっているのに、わかっていることがわからなくなってしまうだけだ、ということを知らない。そして、「大人になれば自然にわかる」とかなんとか教えられ、そう信じ込まされて、わかっていることがわからない大人へと成長していくのだ。

大人だって、対人関係とか、世の中の不公平さとか、さまざまな問題を感じてはいる。しかし大人は、世の中で生きていくということの前提となっているようなことについて、疑問をもたない。子どもの問いは、その前提そのものに向けられているのだ。世界の存在や、自分の存在。世の中そのものの成り立ちやしきみ。過去や未来の存在。宇宙の果てや時間の始まり。善悪の真の意味。生きていることと死ぬこと。それに世の習いとしての倫理（たとえば、知っている人に会ったらあいさつするとか）の不思議さ。などなど。こうしたすべてのことが、

子どもにとっては問題である。

子どもは、ときに、こうした疑問のいくつかを、大人に向けて発するだろう。だが、たいていの場合、大人は答えてはくれない。答えてくれないのは、問いの意味そのものが、大人には理解できないからである。かりに答えてくれたとしても、その答えはまとはずれに決まっている。せいぜいよくて、世の中で通用しているたてまえを教えてくれるか、何だか知らないがそうになっているのだよ、と率直に無知を告白してくれるか、そんなところだろう。④ 子どもは、問うてみても無駄な問いがあることをさることになる。

つまり、大人になるとは、⑤ ある種の問いが問いでなくなることなのである。だから、それを問い続けるひとは、大人になってもまだ〈子ども〉だ。そして、その意味で⑥ 〈子ども〉であるということは、そのまま、哲学をしている、ということなのである。

(永井均『〈子ども〉のための哲学』による)

(注1) 真髓：物事の肝心な点や本質。

(注2) はだか一貫：自分の身体の他に何も持たないこと。

問一 空欄A～Cに入る言葉の組み合わせとして適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- |                  |                |                |
|------------------|----------------|----------------|
| ア (A) いずれにしても    | (B) 少なくとも      | (C) そんなことをいっても |
| イ (A) 少なくとも      | (B) いずれにしても    | (C) そんなことをいっても |
| ウ (A) そんなことをいっても | (B) 少なくとも      | (C) いずれにしても    |
| エ (A) いずれにしても    | (B) そんなことをいっても | (C) 少なくとも      |
| オ (A) 少なくとも      | (B) そんなことをいっても | (C) いずれにしても    |
| カ (A) そんなことをいっても | (B) いずれにしても    | (C) 少なくとも      |

問二 空欄i～iiiに入る適当な言葉を次の中から選んで、それぞれ記号で答えなさい。なお、iiiには同じ言葉が入る。

- |       |       |      |       |       |
|-------|-------|------|-------|-------|
| ア つまり | イ しかし | ウ では | エ だから | オ そして |
|-------|-------|------|-------|-------|

問三 空欄Xに入る言葉を、漢字二字で答えなさい。

問四 傍線部①「そういうやり方で、哲学の真髄に触れることは、絶対にできない」とありますが、それはなぜですか。その理由として不~~不適当な~~ものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 哲学とは、習うのではなく、自分ひとりではじめるものであるから。
- イ 哲学的な諸問題というのは、自分自身の中に生じるものであるから。
- ウ 哲学を研究することと、哲学をすることとは、別のものであるから。
- エ 他人の哲学を理解しても、自分にしっくりこないものが残るから。
- オ 他人の哲学を理解することは、退屈なうえに難しい仕事であるから。

問五 傍線部②「子どもが大人になるとは、どういうことだろう」とありますが、どういうことですか。六十字以内で説明しなさい。

問六 傍線部③「子どもはソクラテスとちがって、たいていの場合、大人たちもほんとうはわかっていないのに、わかっていない」ということがわからなくなってしまっているだけだ、ということを知らない」とありますが、ここの理解として適当なものを次の中からすべて選んで、記号で答えなさい。

- ア 子どもは、世の中のことにについて大人たちもほんとうはわかっていないということを知っている。
- イ 子どもは、世の中のことにについて大人たちもほんとうはわかっていないということを知らない。
- ウ 子どもとソクラテスは、いずれも世の中のことにについて大人たちもほんとうはわかっていないということを知っている。
- エ ソクラテスは、大人たちが、世の中のことにについてわかっていないということがわかっていないことを知っている。
- オ ソクラテスは、子どもが、世の中のことにについてわかっていないということがわかっていないことを知っている。

問七 傍線部④「子どもは、問うてみても無駄な問いがあることをさとることになる」とありますが、それはなぜですか。六十字以内で説明しなさい。

問八 傍線部⑤「ある種の問い」とは、どのようなことに関する問いを指していますか。本文中から二十五字以上三十字以内で抜き出し、はじめの五字を答えなさい。

問九 傍線部⑥「子ども」であるということとは、そのまま、哲学をしている、ということなのである」とありますが、これはどういうことですか。もっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 大人になるにつれて忘れてしまいがちな疑問を抱き続ける子どもは、将来きつと有名な哲学者になれるということ。
- イ 自分がだいたいなことを知らないと率直に打ち明けられる大人は、哲学の道をきわめることも可能であるということ。
- ウ 子どものように、素朴な疑問を抱き続けることは、知ることを求め続ける哲学のあり方そのものであるということ。
- エ 大人になっても子どもの心を失わずにいる人は、世の中の問題を解決する哲学的な思考力をもっているということ。
- オ 自分ひとりで何かをはじめそれを続けられる人は、その年齢ねんれいにかかわらず、哲学をしていることになるということ。

三 次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- ① アメリカアメリカの独立センゲン。
- ② 個人の考え方をソソンチョウウする。
- ③ 美術品のテンランテンラン会を見学する。
- ④ 平安時代のエマキモノエマキモノが発見された。
- ⑤ 部屋に散らばっていた本をトトトノえる。



三

二

一

②×5    ④    ④    ⑧    完答 ⑤    ⑧    ④    ③    ②×3    ③    ④    ⑥    ④    ③    ④    ⑥    ⑤    ⑤    ②×2    ②×2

①	問九	問八	問七			問六	問五				問四	問三	問二	問一	問九	問八			問七	問六	問五	問四			問三		問二	問一		
宣言	ウ	世	な	と	え	大	こ	し	な	ま	オ	無	i	イ	ア		れ	克	チ	オ	エ	ウ		生	吐	克	②	①	X	A
②		の	い	は	て	人	と	ま	か	だ		知	オ			ば	彦	ー					ま	い	彦			イ	エ	
尊重		中	こ	ず	く	に	を	っ	っ	こ						い	に	ム					れ	た	の			Y	B	
③		で	と	れ	れ	向	忘	て	た	の						け	も	が					そ	せ	ミス			ウ	ウ	
展覧		生	が	で	な	け	れ	、	ひ	世						な	甘	勝					な	い	ス					
④			繰	あ	か	て	て	わ	と	の						っ	を	を					こ	、	に					
絵巻物			返	た	た	問	ま	っ	、	の						た	捨	目					と	ニ	し					
⑤			し	り	り	を	う	て	世	こ						い	て	指					に	人	て					
			あ	し	、	発	こ	い	の	と						う	も	た					戸	の	周					
			る	て	答	し	と	な	中	を						考	ら	め					惑	仲	が					
			か	、	え	て	。い	に	よ							え	わ	に					う	に	が					
			ら	解	て	も		と	慣	く						。い	な	は					様	亀	暴					
			。決	も	、	答		い	れ	知						。う	け	、					子	裂	言					
			し	ま	答			う	て	ら													。が	を						
整(える)																														

国語

解答用紙

注意  
も一字制限の問題では、句読点  
も一字として数えます。

② 試合へのやる気が無かったのに、ミスをして泣いている  
克彦のことが許せない思い。

① 試合でミスをして泣いてしまった克彦を、  
なくさめて元気づけてあげたいという思い。

受験番号	フリガナ	
	氏名	

得点	
----	--

第1回解答